

受賞名：国務大臣・国家公安委員会委員長賞

タイトル：おまわりさんからもらったお守り

氏名：金子 心咲

小学校名：静岡県 川根本町立三ツ星小学校 三年

「お母さん、これ、おまわりさんからもらった。」

学校から帰ってきたお兄ちゃんの元気な声が聞こえた。見ると、手のひらの大きさの青いかざりを持っていた。紙を細かく切って作ってあるもので、「交通安全」と書かれていて、一目で手作りのお守りだと分かった。

「すごくきれい。お兄ちゃんちょうだい。」

と、お兄ちゃんに言った。でも、わたしが泣いてもさけんでも、おこっても、絶対にくれなかった。わたしはそのお守りを見るたびにくやしい気持ちになった。いつもは落とし物のお礼はばんそうこう一まいなのにな。

お兄ちゃんが

「おまわりさんが一人一つだって。」

と言っていたことを思い出して、良いことをして自分ですてきなお守りをもろうしかないと思った。次の日から下校のときは、道路をキョロキョロしながら歩いていた。でも、かんとんには落とし物は見つからなかった。

そんなある日、ついに百円玉を拾った。いつもよりドキドキワクワクしながら百円玉をにぎりしめて、元来た道を走ってもどり、交番へ行った。おまわりさんはいなかったけどおくさんが出てきて、

「いつもありがとう。一人一つどうぞ。」

と、いくつかのお守りを見せてくれた。わたしは、女の子らしいピンク色で、細かい組み立てがまるで雪の結しようのようなものをえらんだ。そして、とてもほこらしく感じた。なぜなら、これは、よいことや正しいことをしたことのお礼と、「交通安全」の文字は、わたしたちを見守るおまわりさんの心に感じたからだ。お兄ちゃんが絶対にくれなかった気持ちがよく分かった。このお守りはわたしだけのお守りだ。

おまわりさん。わたしは今でも大切に大切に守りを持っているよ。そして、これからはずっと、良いことや正しいことを見つけていくね。